

第2回懇話会での主な意見要旨と対応表

参考資料No. 1

項目	主な意見	対応方針・考え
(1) 都市計画上の課題の整理	<ul style="list-style-type: none"> 課題の改善のためには具体的な目標設定が必要であり、住民にも分かり易いよう目指すべきモデル都市を示すべき。 弱みを強みに変えていく発想の転換が必要である。空き家の問題を「弱み」とみるか、逆に「資源」と捉えるか。プラスの発想が必要。 今回の都市構造分析は全市を見渡したものであり、今後は、地域別にブレークダウンして強みや課題を洗い出すことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市の整備方針の中で、6つの基本方針ごとに具体化したい。 「空き家の問題」に関しては、現在、博労地区では、「まちなか再構築」のモデル地区として、地元の方々を中心に、住環境の向上、空き家の活用や多世代参加のコミュニティづくりに取り組まれている。今後、このような取り組みが、市内に広がるよう、本計画に位置付けるとともに市として推進してまいりたい。 今後、検討を予定している地域別構想の中で、各地域それぞれで強みや課題を洗い出し、整備方針に反映させたい。
(2) 都市づくりの基本方針	<ul style="list-style-type: none"> コンパクト・アンド・ネットワークに関して、高岡らしさが出ていない。金沢などの先進事例に参考とし、歴史的資源を活かした「歩いて楽しいまちづくり」をより具体的に示し、住んでいる人自らが楽しめるまちづくりを進めるべき。 歩いて楽しいまちづくりに関しては、市ヘルスポランティア協議会で、気軽に歩いて楽しいルートづくりをしており、地区別ワーキングなどにおける検討の際に活かすべきである。 若者が郊外へ流出し、高齢者が多い中心市街地において、空き家問題など目に見える形で取り組みを進め、発信していくことが必要。 都市計画マスタープランは、市民が共通して持てる夢を描く視点も重要であり、官民一体となって取り組みを進めるよう、分かり易く示すことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市では、中心市街地、及び伏木地区で「ストリート構想」を策定(それぞれH23、27に策定)し「歩いて楽しいまちづくり」を推進している。こうした考えと連携するため都市づくりの基本方針に「歴史・文化と自然を活かした都市づくり」を6つの柱の一つとして掲げ、都市計画マスタープランの都市整備方針の中で位置付けたもの。今後とも引き続き取り組みを進めてまいりたい。 都市計画マスタープランの都市整備方針の中で、歴史・文化資産を巡るウォーキングルートの設定・活用と位置付けたほか、今後、地域別構想の整備方針の検討を進める中で活用したい。 空き家問題については、平成29年度に策定予定の(仮称)高岡市空家等対策計画の中で対応施策を示すこととしており、都市計画マスタープランの都市整備方針の中でも空き家の活用を柱の一つに位置付けたい。 また、各種団体・組織や市などで構成する高岡市空き家活用推進協議会で、空き家の利活用、流通促進、維持管理へ向けた相談会の開催や啓発活動等を行っている。まちなかでは、空き家を活用した様々な取り組み事例や空き家の除却によりまちなかの整序につながった事例が出てきていることから、そうしたモデル的な取り組みの発信も積極的に行いたい。 都市整備方針において、土地利用や都市施設(道路、公園等)といった従来の分野別の方針ではなく、どのようなまちを目指すのかを具体的にイメージできるよう、6つの基本方針ごとに示したい。

項目	主な意見	対応方針・考え
(3) 将来都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなか居住と、ここ数十年続いた郊外の住宅地の開発は相反し、今後、両立は不可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 密度が薄く広く広がった市街地を持続可能な都市構造とするため、居住や都市機能を、まちなかや各地域の拠点に誘導する方針である。公共交通や生活サービス施設の利便性の高いまちなか(各地域の拠点)と、郊外で車を使って生活していただく地域との居住を選択していただく中で、少しずつ誘導していきたい。
(3) 将来都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市構造分析では、公共交通の利用環境についてポテンシャルを持っていることが分かったが、一定以上のサービスの確保が課題である。牧野や中田といった鉄軌道が無い地域と都心エリアとの連携方策を検討すべき。 ・ 将来都市構造図を実現するため、その内容や、行政、民間それぞれで、誰が何をするのかといった点まで具体化すべきである。 ・ 歴史のまちなみゾーンを観光交流の拠点とする点に関しては、山町筋や金屋町の地元の方々の意識の醸成が必要である。 ・ 市の考えと、市民の考えの摺り合わせを今後行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牧野や中田地区では、バス路線はあるが本数が少ないことが課題である。一方で牧野地区では、射水市を走る万葉線や、射水市のコミュニティバスも利用できる環境があるほか、中田地区でも戸出駅といった拠点も近いことからそちらへのアクセス手法について検討したい。 ・ 都市計画マスタープランにおける将来都市構造図は、概念を示したものであり、第3回懇話会において、全市を見渡した土地利用や都市施設等の都市整備方針を、その後に検討する地域別構想においては、地域別の都市整備方針を具体化したい。 ・ このほか、立地適正化計画においても居住や都市機能の誘導区域を設定し、誘導する施設も含めて具体的に示したい。 ・ また、計画で示す内容の実現のためには、市民、事業者、行政の3者がそれぞれの役割分担と相互の連携・協力が不可欠であり、今後、計画の中で「実現化方策」を章立てして示したい。 ・ H12以降、当地区を歴史のまちなみゾーンに位置付けて以降、伝建地区の選定、日本遺産の認定やユネスコ無形文化財の指定など、高岡のもつ歴史・文化が国内外で認められてきている。また、山町筋や金屋町では、新たなまちづくり組織が結成されたほか、交流と賑わいを目的とした拠点など、町屋を活かした取り組みなどの動きも出てきており、今後も引き続き、地元のまちづくり協議会等との連携を密にしていきたい。 ・ また、こうした動きを促進し継続的な取り組みとなるよう、市民、事業者、行政の3者がそれぞれの役割分担と相互の連携・協力について、計画の中で「実現化方策」を章立てして示したい。 ・ 計画内容の検討を進める中で、本懇話会や住民との意見交換(説明会、パブリックコメント)を行い、高岡市版のコンパクト・アンド・ネットワークを具体化したい。